

泉の辺

山田真砂年

草田男を語る袖子や泉の辺

梅雨の川昼を灯せる家閑か

梅雨の川ひろくたひらに彼方まで

ハンモックゆあんと海の見えにけり

凌霄花はイカロスのごと陽に落ちて

夕立や洗ひざらしの坂に立つ

お気に入りの詩集に蠅の止まりをり

真つ白な少女ひらひら秋の浜

夜の蟬ブリキの船の風呂に浮く

風を生む水のよぢれや川とんぼ

蝸に日照雨の過ぎてゆきにけり

邯鄲や闇に記憶のあるごとく